

議員氏名：浜井 直彦

議案番号：議案第49号～第53号一括議題

案 件 名：議案第49号 令和6年度二宮町一般会計歳入歳出決算の認定について

議案第50号 令和6年度二宮町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第51号 令和6年度二宮町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第52号 令和6年度二宮町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第53号 令和6年度二宮町下水道事業会計決算の認定について

討論内容：

私は、議案第49号、令和6年度一般会計決算について反対、議案第50号、51号、52号の3特別会計には賛成、53号、下水道事業会計について賛成の立場で討論いたします。

本決算は、歳入歳出ともに、形式的には予算に沿って執行されたものと見受けられます。しかしながら、その実質的な内容、すなわち予算が町民福祉の向上にどれだけ貢献したかという観点から見ると、多くの問題点と疑問が残るものであり、到底認定することはできません。

第1に、令和6年度の予算執行において、敬老祝金の減額という判断が、決算という形で数字に表れました。これは令和6年度予算討論のときにも申しましたが、予算の振替や歳出の削減という名の下に、長年にわたり地域の高齢者を支えてきた福祉施策が後退したことを意味します。担当課からは、他自治体での減額傾向である例や、他の高齢者向け福祉サービス、例えば戸別ごみ収集であったり、タクシー券などへの予算振替が説明されましたが、それらは全く別の次元の施策であり、敬老祝金を持つ地域経済への循環効果や、高齢者への直接的な感謝の意を軽視した結果であります。

町内における交通施策に対しても、バス会社に対しての事後対応が多く、移動支援や地域間移動などに対して積極的な研究、提案などの姿勢が見えず、このままでは、二宮町は高齢者が暮らしにくいまちになってしまいかねません。決算書に示された数字は、町民の高齢者に対する冷たい姿勢を象徴しており、看過することはできません。

第2に新庁舎整備に関連する大きな予算が債務負担行為として可決されました。また、令和6年度中に、果樹公園の土地購入に関する予算が執行されていますが、庁舎整備予定地の各種災害リスクに対応する明確な対策や改善点、妥当性について、いまだ納得のいく説明はなされていません。また、資材費や人件費の高騰が続く中で、事業全体の費用が膨らむ可能性が指摘されているにもかかわらず、その対策や見通しが十分示されないまま進められました。これは、町民の税金が適正にかつ効率的に使われているかという点に大いに疑問を投げかけるものです。

第3に、不用額の多さについてです。令和6年度の一般会計決算において、幾つかの事業で多額の不用額が発生しています。これは、予算編成段階での見通しの甘さ、あるいは執行過程における計画性の欠如を示唆するものです。また、不用額の財政調整基金への積み増しなど、今後の支出が増えるであろう新庁舎建設資金確保ありきと思われても仕方ありません。

以上の理由から、一般会計決算は単年度の予算執行として不適切であり、また、将来にわたる健全な財政運営の姿勢が欠けていると言わざるを得ません。

3特別会計については、おおむね妥当。

下水道事業会計については、今後も劣化した下水管の入替え工事など、費用負担が発生する懸念

は続きますが、現状では妥当ではないかと考えます。

決算を認定するということは、これらの問題点を追認することにほかなりません。執行者に対して、予算編成と執行の在り方を見直し、町民の声に真摯に耳を傾けていただくことを強く求め、令和6年度の決算の討論といたします。